



職業奉仕委員長の皆様、こんにちは。大多数のクラブは（CLP採用以外）四大奉仕のクラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕から委員会構成がされていることでしょうか。社会奉仕（Community Service）と国際奉仕（International Service）この2つは、よくわかります。クラブ奉仕（Club Service）は、ちょっとわかりにくい、職業奉仕（Vocational Service）は、

特にわかりにくいといわれます。

職業奉仕は新入会員の頃は、年末セールのアサリのことかと思っていました。わかりにくい理由として Service を奉仕と日本語訳しているからと考えます。英語圏では、サービスとは人々の中の役に立つことをする（報酬を受け取ることを含む）たとえば

1. 郵便局員が仕事をする Service Time AM:9:00~PM 5:00
2. 会社で従業員の能力を活用し、会社が利益をあげ自分も利益を得る、そして従業員の報酬をあげる。これも広い意味の Service

と言うように受け取り方のようです。

日本語の奉仕は、

- ① 自分の利益を離れて、他の人や世の中につくす（慈善や寄付）
- ② 朝早く起きて駅や道路の掃除をする

等のボランティアが頭にうかびます。

Service を人の役に立つ事と考えますと、ロータリーにおけるクラブ奉仕とは

1. 例会に出席する
2. 会員間の親睦を計る
3. クラブの世話をする

等、クラブの役に立つことであります。

ロータリーの職業奉仕 Vocation（職業）は天職（天から授かった職業又は、生まれながら身につけている務め）でありますので、自分の職業を通じ他の人や世の中の役に立つことであります。日本で第1代目の米山梅吉さんは奉仕と言わず『サービス』で、そのまま通しています。2代目の井坂孝ガバナーの月信では、人間は孤独の生活の出来ない群居の動物でありますから人と人との関係がおこります。この関係を良くするためには「人のために役に立つ」ということを考えなければなりません。この人のために役立つという事は英語でいう Service でありましょう。

ロータリーはサービスをもって人間活動の根本理念にしたいという運動です。いわゆるフェアプレイで行くことも職業サービスの1つです。そのサービスの結果の繁栄をアーサー・シルドンは He profits most who service.と申しています。最もよくサービス（世のため、人のために役に立つ）なれば、事業を繁栄させ、自分も従業員も家族も幸せになる道であるということでしょう。サービスを奉仕とした日本語訳のため、職業奉仕は、余計わかりにくくなってきます。

ロータリーの友12月号にてRI会長のボイドさんは、文化の違いについて述べています。シェルドンのHe profits most who service.は英語圏ではProfitは金銭的な報いと理解しがちで、この標語を削除した方が良いとの意見があります。日本のロータリアンは、profitは金銭的なものより精神的なものと考えて、この標語を大切にしています。人間は自分の文化で物を考えますが、異なった文化もあると理解するべきであり、柔軟に考えれば大きな問題はないと言っています。私たちロータリアンは自分の職業に誇りをもち、その職業の代表者としてのステイタスを持っていたいものであります。

職業奉仕委員会 次年度活動方針 (インストラクター・次期職業奉仕委員長 角谷 浩二)

当部門の次年度活動方針をお話させていただきます。職業奉仕はロータリー活動の根幹をなす思想であります。社会奉仕や国際奉仕の実践こそがロータリーの奉仕であると思われる方が多数おられます。例会に出席し、食事をし、卓話を聞くより、ボランティア活動を実践するほうが、よほど人のためになると考えるロータリアンが増えてきております。クラブ例会を大切にしない風潮があります。



ロータリー活動は、有益な職業から選ばれた会員が毎週1回の例会に出席し、お互いが師となり、徒となり倫理を学び、自己研鑽し、奉仕の心をそれぞれの個人生活、職場、地域社会、国際社会で実践することにあります。ロータリーは単なる慈善団体、寄付団体、ボランティア団体ではないことを会員の皆様方に理解してもらおうのが当委員会の活動方針です。

【活動計画】

次に活動計画ですが、私は次年度の当委員会のメインテーマを「滅びゆく職業奉仕（職業奉仕とは何か）」といたします。このメインテーマについては、次年度地区職業奉仕クラブ委員長会議にて詳しくお話する予定です。

本日の地区協議会は、各クラブがどのような職業奉仕活動をされているかを討論いたします。他の奉仕部門活動は色々な所から情報が入ってきますが、しかし職業奉仕活動というのは非常に限られた活動となっており、他クラブからの情報が希薄です。そこで、各クラブにアンケートをとらせていただいております。これに関しては、私の後で丸山副委員が詳しく説明させていただきます。次年度の各クラブ職業奉仕活動の参考にしていただきたいと思います。又、これを踏まえてIM単位での討論会を予定しておりますので、どうか活発なる討論をお願いいたします。

ここで海外での職業奉仕活動をご紹介します。

- ① ニューヨーク州バッファローのロータリアンは、「職業を選ぶ」という週1回15分のラジオ放送を後援し青少年に職業相談のパンフレットを数千部配布した。
- ② ミネソタ州セントポールでは、クラブが町民に地元産の製品を買うよう奨励する行事として【郷土品週間】を開催した。

- ③ シンガポールのロータリアンは、東南アジアの商業センターとして同市の振興を目指すシンガポール製造業者協会の結成を援助した。
- ④ インドネシアのロータリアンはアタウロ島の村民に生産性と所得の改善を目的とする魚類のマーケティングと保護についての研修を提供した。
- ⑤ コロンビアとブラジルのロータリアンはロータリーの奉仕や理念を紹介する目的で、従業員をロータリーの例会に連れてくるよう会員に奨励した。

以上で私の話を終わらせていただき、次に丸山副委員長にアンケート結果についてのお話をさせていただきます。

【アンケート結果報告】

(次期職業奉仕副委員長 丸山 信仁)



今年度は角谷委員長の下副委員長をさせていただき、来期も皆様とともに職業奉仕の勉強をしていく予定で副委員長を受けました。カウンセラー平尾PDG 角谷委員長にアドバイスを頂きながら皆様の協力の上進めていきたいと思っております。よろしくお願いします。

今回は2006-2007年度の行った事業・次年度行う事業を各クラブにアンケートを記入いただき、拝見させ

ていただき、各クラブ委員長のご苦労が伝わってきました。その中で、私なりに興味のある事業をピックアップし本日出席の委員長様に説明していただき、IM別検討会に進めていきたいと思っております。ご指名をさせていただいた委員長様は事業内容・効果などの説明をお願いします。

一番多かった、角谷職業奉仕委員長の卓話を聞いたとありましたがどのように活用されたのかを聞いて勉強したいと思います。今年度実施した事業の中から、田辺クラブの竹本様に卓話聞き、職業奉仕月間に「職業奉仕とは何か」の題で角谷委員長に卓話をさせていただき新入会員が十分理解できたと思っております。

次に職場見学が多かったのですが親睦旅行とかねて実施されるクラブと移動例会で行われるクラブがありました。

親睦旅行かねて行われる新宮クラブ杉本様 親睦旅行を兼ねメンバーの会社に職場見学を毎年実施しています。次年度も名古屋の方に職場見学の予定です。

例会変更で職場見学を実施した富田林南 森井様に職業奉仕見学で大阪高等裁判所を見学し実際に行われている裁判を傍聴したり、裁判官に質問の時間を設けていただき大変有意義でした。

変わったところでは、関西国際空港クラブ 安田様から関空ウォッチングで出国エリア及び空港周辺を見学また、飛行船(ツェペリンNT)及び第2滑走路見学などを実施した。

中学生の職場体験を実施し、または、インターンシップを受け入れたクラブは大変多く松原中・御坊東・御坊南 海南東 和歌山アゼリア 羽曳野・忠岡・田辺など多くのクラブが取り組みをしています。

次回機会があれば林道開通のことで串本クラブにご報告を頂きたいと思っております。

<次年度事業を計画立てられているクラブの中から説明>

優秀職業人表彰・団体表彰などを計画しているクラブがありました。

毎月第2例会日に会員の事業所の創業記念日に当たられる会員に記念品及び職業奉仕委員長よりのお祝いの言葉を贈り「創立記念の歌」を会員全員で歌いお祝いをする（和泉クラブ）

会員企業の状況を話し合うことにより他業種の現状などを勉強し合い、情報交換などを考えているクラブが見受けられました。また会員が学校に出向き出前授業を実施計画を立てられ前向きに取り組むクラブもあり次年度の委員長様の取り組みがおおいに期待したいと思います。

【総 評】

（カウンセラー・PDG 平尾 寧章）

熱心な討論、そして各IMの発表ありがとうございました。いろいろなご意見が、面白かったです。ロータリーは2つの原点があります。

1. 例会出席については

出席率の減少傾向にあります。それは、ロータリーに魅力がないのか、例会の内容によるのかは、会員個人でいろいろの事でしょう。

2. 1業種1会員制は崩壊いたしまして、同一業種は1クラブ5名、50名以上は1割となっています。職業人の代表としての意識が薄れてきて、ロータリアンとしてのステイタスの低下があるからでしょうか。

ロータリーの理念、それが職業奉仕であると考えます。皆様の次年度の活躍を期待しています。

